

論文

英文法のアクティブ・ラーニング：冠詞と完了形の授業案*

Active Learning of English Grammar: Lesson Plans on
Articles and Perfect Tenses

西 前 明

SAIZEN Akira

抄録：

本稿ではアクティブ・ラーニングの、発見、問題解決、討論、調査という要素に焦点を当て、アクティブ・ラーニング方式の英文法を提案する。文法のトピックとして冠詞、過去完了、現在完了を取り上げ、具体的な授業案を立てる。そこでは教師が文法を一方的に教えるのではなく、学習者自身が発見するよう導く。問題とそれを解決するための最初の資料を与え、学習者はその資料をよく観察して問題解決に当たり、グループ討論を経た後、検証のための調査を行う。最初に与える資料には子供向けの物語文が適していると主張する。本稿ではアーノルド・ローベルの作品を用いる。これはコーパス化して、検証のための調査で用いる資料としても利用する。もう一つの資料として、インフォーマント(=ネイティブ・スピーカー)も活用する。英語学習における主体性を養い、学習者が学校を卒業した後も自身の英語を自身の力で改善・発展させていけるような指導方法を考える。

キーワード：アクティブ・ラーニング、冠詞、完了形、アーノルド・ローベル、
インフォーマント

1. はじめに

1.1 目的

本稿の第一の目的は、アクティブ・ラーニング型英文法の具体的な授業案を示すことである。本稿では文法のトピックとして冠詞、過去完了、現在完了を取り上げる。授業の対象は高校上級・大学初級を想定している。

第二の目的は、ネイティブの子供向けの物語文が、英語学習における主体性を養うための優れた教材になることを示すことである。

1.2 アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングという用語は様々なキーワードを含むが、本稿では発見、問題解決、討論、調査という要素に焦点を当てる¹⁾。

ある文法規則を教えようとするとき、教師がいきなりその詳細な説明を始めてしまうのではなく、可能な限り学習者自身が発見するよう導く。例えばtheのある用法を教えたいとき、理想としては次のような手順を踏みたい。

(1) アクティブ・ラーニング型英文法の理想的な手順

- a. theのその用法を問題として取り上げるために、その用法のtheを含み、かつ、その用法を**発見**しやすい例文(=文脈を持った文章)を学習者に与える。
- b. 学習者は(a)の例文をよく観察し**問題解決**に当たる。
- c. (b)で出たアイデアを学習者間で共有し**討論**する。
- d. (c)でまとめたアイデア(=仮説)を検証するため、学習者自身が、辞書だけでなく、ネイティブ・スピーカーに質問したり、他の英語の資料を検索するなどの**調査**を行う。
- e. (a)-(d)で学んだ流れに沿って、学習者にtheの別の用法を**発見**(=問題の発見)させる。

2-4節では、冠詞、過去完了、現在完了をトピックとして、(1)の手順になるべく沿うような授業を設計する。

1.3 子供向けの物語文：アーノルド・ローベル

子供向けの物語文は本来国語教育の機能を持っており、英語の基本が見えやすい形で書かれていることが多い。例えば、(2a)の下線部には可算名詞と不可算名詞の区別が見えるが、“不可算名詞 and 可算名詞”のフレーズが二度繰り返されることによって、それは際立って見えてくる。

(2) a. “I can see earth and stones. I can see grass and flowers. It is a wonderful sight.”

(*Two Large Stones*: 29)

b. Toad tripped over a rock. He bumped into a tree. He fell in a hole. ...
Frog came into Toad's house. He came in quietly. (*The Hat*: 44, 47)

(2b)では、intoには「進入 (家に入る)」と「衝突 (木にぶつかる)」の意味があること、および、in には前置詞と副詞の用法があるがintoには副詞の用法はないことが見て取れる。in と into が比較されることによって、両者の意味と用法が鮮やかに浮かび上がる。しかもその比較が小さなスペースの中でできるようになっている。

このような特徴を持つ物語文は、学習者が自ら課題を発見しそれを自ら解決していくアクティブ・ラーニング型の授業において、格好の教材になるにちがいない。本稿では、Arnold Lobel (1933-1987) 作の以下に挙げる7冊の絵本に収められた14の物語から例文を採取した。また、7冊の全36話から約1万2千語のコーパスを作り、これを(1d)で述べた調査で使う資料とした。

Spring/ A Lost Button/ The Letter (from *Frog and Toad Are Friends* (1970))
The Garden/ Dragons and Giants (from *Frog and Toad Together* (1971, 1972))
The Mouse and the Winds/ The Journey (from *Mouse Tales* (1972))
Upstairs and Downstairs/ Owl and the Moon (from *Owl at Home* (1975))
The Corner/ Ice Cream/ The Surprise (from *Frog and Toad All Year* (1976))
Two Large Stones (from *Mouse Soup* (1977))

The Hat (from *Days with Frog and Toad* (1979))

1.4 インフォーマント(ネイティブ・スピーカー)

1.3で、「(2b)を見るとintoに副詞の用法がないことがわかる」と述べたが、実は(2b)を見ても、ないとまでは言い切れない。なさそうだという予感がするだけである。このようなとき辞書を引くのも大事だが、学習者にはぜひネイティブ・スピーカーに質問することを勧めたい。ネイティブへの質問は刺激的な体験なので、質問の結果も強く記憶に残りやすい²⁾。

(2b)のintoに関して難しい質問は必要ない。「He came in quietly.のinをintoに換えられるか?」、それだけ聞けばよい。ネイティブに質問するときは、質問をできるだけネイティブが答えやすい形にする工夫が必要である。例えば、offという前置詞の意味と用法を知りたいとき、「offの意味は何ですか?」といきなり聞くのではなく、(3)のような特定の文を見せて、「このoffをfrom、および、out ofに換えることが可能か?もし可能なら意味に変化があるか?」と質問する。(3)は絵本からの引用であるが、その絵本を開いてこの文を見せて質問するのがよい。

(3) Come down and blow my boat off this house.

(*The Mouse and the Winds*: 34)

(3)のような用例は、1.3で述べたコーパスを使って見つけるとよい。物語文から作ったコーパスとネイティブ・スピーカーは、本稿で提案するアクティブ・ラーニング型英文法に不可欠のツールである。

2. 冠詞

Two Large Stones

Two large stones sat on the side of a hill. Grass and flowers grew there.
 “This side of the hill is nice,” said the first stone. “But I wonder what is on the other side of the hill?” “We do not know. We never will,” said the

second stone. One day a bird flew down. “Bird, can you tell us what is on the other side of the hill?” asked the stones. The bird flew up into the sky. He flew high over the hill. He came back and said, “I can see towns and castles. I can see mountains and valleys. It is a wonderful sight.” The first stone said, “All those things are on the other side of the hill.” “How sad,” said the second stone. “We cannot see them. We never will.” The two stones sat on the side of the hill. They felt sad for one hundred years. One day a mouse walked by. “Mouse, can you tell us what is on the other side of the hill?” asked the stones. The mouse climbed up the hill. He put his nose over the top and looked down. He came back and said, “I can see earth and stones. I can see grass and flowers. It is a wonderful sight.” The first stone said, “The bird told us a lie. That side of the hill looks just the same as this side of the hill.” “Oh, good,” said the second stone. “We feel happy now. We always will.”

課題1

「(4)の the の用法を説明しなさい。また本文からこれと同じ用法の the を見つけなさい。」

(4) a. One day a bird flew down. … The bird flew up into the sky.

(Two Large Stones: 24, 25)

b. One day a mouse walked by… The mouse climbed up the hill.

(Two Large Stones: 28, 29)

(各課題の下に解説を与えた。学習者が自身で発見できなかった部分を教師が補足することになる。)

(4)は「a+初出名詞」と「the+既出名詞」の典型的な例である。[a bird…the bird]の場合、両者は同一のbirdとなるが、[a bird…a bird]の場合は、両者の異同は不明となる(必ずしも異なるbirdではない)。

(4a)と(4b)はともにOne dayで始まり、主語も動物で動詞句も似たりリズムを持つ。このようによく似た文が繰り返されることによってこの用法は際立つ。例

えば(5)の例だけではそれほど強く印象付けることはできないだろう。

- (5) Two large stones sat on the side of a hill. ……He flew high over the hill.
(*Two Large Stones*: 22, 25)

課題2

「本文から「the+初出名詞」を見つけなさい。中でも(6)の例に注目しよう。他の作品から[the/a+名詞+of]を見つけ、それらの例におけるtheの用法について考えなさい。」

- (6) Two large stones sat on the side of a hill. (*Two Large Stones*: 22)

(6)と(7)のtheは「the+初出名詞」の例である。これらの例では名詞に前置詞句が後続しているが、前置詞句の修飾を受ける名詞には必ず定冠詞theが付くという事実はない。(7d)では不定冠詞aが付いている。

- (7) a. The shadow of a hawk fell over them. (*Dragons and Giants*: 48)
b. Owl climbed to the top of a hill. (*Owl and the Moo*: 58)
c. … landed on the roof of a house. (*The Mouse and the Winds*: 33)
d. “Go away,” said the voice from a corner of the room. (*Spring*: 6)

課題3

「(8)の三つの例において、aとtheは意味をどう変えるかをネイティブ・スピーカーに質問して調査しなさい。」

- (8) a. the/a ceiling of the room
b. the/a floor of the room
c. the/a wall of the room

the ceiling/floor (of the room)のtheは“one and only”を表す(このtheは既出名詞に付くtheとは異なる)。部屋の天井と床は(通常)一つなのでこのtheを用いることができるが、部屋の壁は(通常)複数あるので、これを用いることはで

きない。wallにtheが付いていれば、それは既出名詞に付くtheである³⁾。aは必ずしも“one of many”を表す訳ではなく、“one and only”か“one of many”については沈黙している。しかし、天井や床のように常識的に一つの物については、(通常)aは用いない⁴⁾。

(7)のshadow、top、roofに付いているtheは、全て“one and only”を表すtheである。ある物体に太陽光線が当たってできる影は常に一つである。家の屋根は一つである。丘の頂上は一つである。(6)のthe side of a hillについても同じで、丘の斜面は一つである。自然の山は幾何学的な多面体とは異なり、明確に区切られたsideを持たない。ゆえに“one and only”なのだと思われる。(円形の部屋の壁も同じである。その場合のthe side (of the room)のtheは“one and only”を表す。)一つのsideであってもそれを恣意的に区切って、this side、the other side、the east sideなどと表現することはできる。

課題4

「本文中の他の「the+ 初出名詞」についても同じように調査しなさい。」例えば、the skyのtheは“one and only”を表すものだが、課題2・3で見た“one and only”の例とどこか違う点はないだろうか？

(9)に挙げた例は「世界に一つしかない物」である。

(9) the sun, the moon, the earth, the world, the sea

これに対して、課題2・3で見た“one and only”の例、例えばthe shadow of a hawkのshadowは、世界に一つしかない影ではなく、あるタカが落とす影としては一つしかない影である。すなわち、世界を枠とするのではなく、前置詞句のof a hawkが作る範囲の中で一つしかない影である。前置詞句と同様に関係節も範囲を指定することができるが((注4)を参照)、それらの句・節ではなく、文脈やその場の状況によっても範囲は定まる。(10a)は、「受験者の中で不合格だったのはあなただけです」という意味である。ここでは受験者の集団が枠となる。(10b)では不合格者が他にもいたかどうかは不明である。(11a)は、「(ネコが複数

いる状況で)しっぽが長いのはうちのネコだけです」という意味であり、ネコの集合が枠となる。(11b)はネコの身体的特徴を述べているだけである。

(10) a. On the test you made **the** failing grade.

b. On the test you made **a** failing grade.

(11) a. My cat has **the** long tail.

b. My cat has **a** long tail.

課題5

「(12)の日本語と(13)の英語が伝達する意味情報には違いがある。どこが違うだろう？」

(12) 私が昨夜見た映画はとても面白かった。

(13) a. **The** movie that I saw last night was very interesting.

b. **A** movie that I saw last night was very interesting.

(13a)も(13b)も「面白かった映画が一本である」ことを伝えている。(13a)はさらに「昨夜見た映画が一本である」ことも伝えている。このことは(13b)からは読み取れない。(13a)と(13b)のこの違いは、課題2-4で考察したaとtheの用法の違いによるものである。(12)の日本語を読んでも、「面白かった映画は何本なのか」、「昨夜映画を何本見たのか」、いずれも不明である。

課題6

「(14)の例も「a+初出名詞」と「the+既出名詞」の例であるが、冠詞の他にも、ある規則性が観察できる。それは何？」

(14) They came to **a** dark cave. **A** big snake came out of **the** cave. “Hello lunch,” said **the** snake when he saw Frog and Toad.

(*Dragons and Giants*: 45)

[a+形容詞+初出名詞]は当然可能だが、(15b)のような[the+形容詞+既出名詞]という言い方は通常しない。(16)のように日本語では問題ない。)ただし、(17)

のように、形容詞が先行文脈にあれば、[the+形容詞+既出名詞]も可能である⁵⁾。

- (15) a. They came to a dark cave. A big snake came out of the cave. “Hello lunch,” said the snake when he saw Frog and Toad.

(*Dragons and Giants*: 45)

- b. ??They came to a cave. A snake came out of the dark cave. “Hello lunch,” said the big snake when he saw Frog and Toad.

- (16) a. 彼らは暗い洞窟にやってきました。大きなヘビが洞窟から出てきました。
「・・・」とヘビは言いました。

- b. 彼らは洞窟にやってきました。ヘビが暗い洞窟から出てきました。
「・・・」と大きなヘビは言いました。

- (17) a. They walked across a large meadow.They walked back to the large meadow.

(*A Lost Button*: 28, 30)

- b. “That button is black. My button was white.” Toad put the black button in his pocket.

(*A Lost Button*: 31)

3. 過去完了

Spring

Frog ran up the path to Toad’s house. He knocked on the front door. There was no answer. “Toad, Toad,” shouted Frog, “wake up. It is spring!” “Blah,” said a voice from inside the house. “Toad! Toad!” cried Frog. “The sun is shining! The snow is melting. Wake up!” “I am not here,” said the voice. Frog walked into the house. It was dark. All the shutters were closed. “Toad, where are you,” called Frog. “Go away,” said the voice from a corner of the room. Toad was lying in bed. He had pulled all the covers over his head. Frog pushed Toad out of bed. He pushed him out of the house and onto the front porch. Toad blinked in the bright sun. “Help!” said Toad. “I cannot see anything.” “Don’t be silly,” said Frog. “What you see is the clear warm light of April. And it means that we can

begin a whole new year together, Toad. Think of it,” said Frog. “We will skip through the meadows and run through the woods and swim in the river. In the evenings we will sit right here on this front porch and count the stars.” “You can count them, Frog,” said Toad. “I will be too tired. I am going back to bed.” Toad went back into the house. He got into the bed and pulled the covers over his head again. “But, Toad,” cried Frog, “you will miss all the fun!” “Listen, Frog,” said Toad. “How long have I been asleep?” “You have been asleep since November,” said Frog. “Well then,” said Toad, “a little more sleep will not hurt me. Come back again and wake me up at about half past May. Good night, Frog.” “But, Toad,” said Frog, “I will be lonely until then.” Toad did not answer. He had fallen asleep. Frog looked at Toad’s calendar. The November page was still on top. Frog tore off the November page. He tore off the December page. And the January page, the February page, and the March page. He came to the April page. Frog tore off the April page too. Then Frog ran back to Toad’s bed. “Toad, Toad, wake up. It is May now.” “What?” said Toad. “Can it be May so soon?” “Yes,” said Frog. “Look at your calendar.” Toad looked at the calendar. The May page was on top. “Why, it is May!” said Toad as he climbed out of bed. Then he and Frog ran outside to see how the world was looking in the spring.

課題7

「(18a)の過去完了形had pulledを(18’a)の過去形pulledに、(18b)の過去形を(18’b)の過去完了形に、(19)の過去完了形had fallenを(19’)の過去形fellに、(20)の過去完了形had openedを(20’)の過去形openedにそれぞれ変えると、意味がどう変わるかを予想しなさい。またネイティブ・スピーカーに質問して確認しなさい。」

(18) a. Toad was lying in bed. He **had pulled** all the covers over his head.

(Spring: 6-7)

b. He got into the bed and **pulled** the covers over his head again.

(Spring: 10)

(18') a. Toad was lying in bed. He pulled all the covers over his head.

b. He got into the bed and had pulled the covers over his head again.

(19) Toad did not answer. He had fallen asleep.

(Spring: 12)

(19') Toad did not answer. He fell asleep.

(20) A bird flew into the room. I had opened all the windows.

(20') A bird flew into the room. I opened all the windows.

過去完了は、ある出来事が先行文で語られた出来事より先に起こったことを表す。例えば(18a)において、had pulledはpullの出来事が先行文のlieの出来事より先に起こったことを表している。出来事を起こった順に述べる場合は過去形を用いる。(18b)では、get→pullの順で出来事が起こっている。ゆえに、(18a)と(18'a)はlieの出来事とpullの出来事の順序が逆になる。(18b)と(18'b)はgetの出来事とpullの出来事の順序が逆になるが、(18'b)は奇妙な意味になる⁶⁾。(20)は「窓を開けていたら鳥が入ってきた」、(20')は「鳥が入ってきたので窓を開けた」という意味である。(19)は(21)のように言い換えられる。(19')は「答えずに寝てしまった」という意味である。

(21) a. Toad did not answer. He was already asleep.

b. Toad fell asleep. He did not answer.

課題8

「他の作品からも過去完了の例を見つけ出し、それらを過去形に変えると、意味がどう変わるかを予想しなさい。またネイティブ・スピーカーに質問して確認しなさい。」

過去完了は出来事の順序を逆転させるので、(22)はfall←sewの順である。(22')は過去形なのでfall→sewの順序となり奇妙な意味になるはずである。ところが本稿のインフォーマント調査によると、(22')の意味は(22)と同じである。ただ(22')

の方が口語的であるという。(23)と(23')も同様に同じ意味である(eat←bake)。(22)・(22')と(23)・(23')では、過去完了形の代わりに(意味を変えないで)単純過去形が使えるということになる。

(22) None of the buttons fell off. Toad **had sewed** them on very well.

(*A Lost Button*: 39)

(22') None of the buttons fell off. Toad **sewed** them on very well.

(23) I ate those cookies. She **had baked** them for me.

(23') I ate those cookies. She **baked** them for me.

(24)・(25)は本来過去完了形であるべきところで、過去形が使われている例である。(24)と(24')は同じ意味である(put←find)。(25)と(25')も同じ意味である(run←see)。

(24) Frog put the hat back on the hook where he **found** it. (*The Hat*: 49)

(24') Frog put the hat back on the hook where he **had found** it.

(25) They ran past the place where they **saw** the snake.

(*Dragons and Giants*: 49)

(25') They ran past the place where they **had seen** the snake.

(24)も(25)も問題の過去形が関係節の中にあるが、関係節の中でも過去完了は当然使える。(26)はその例である。ここでも過去形が代用できる。

(26) The pile of leaves that Frog **had raked** for Toad blew everywhere.

(*The Surprise*: 50)

(26') The pile of leaves that Frog **raked** for Toad blew everywhere.

課題9

「課題7では、過去完了形を過去形に換えると意味が変わる例を、課題8では、換えても意味が変わらない例を見た。なぜそのような違いが生じるのか考えなさい。」

(27)・(27')は課題7で見た例、(28)・(28')は課題8で見た例である。

(27) A bird flew into the room. I **had opened** all the windows.

(27') A bird flew into the room. I **opened** all the windows.

(28) I ate those cookies. She **had baked** them for me.

(28') I ate those cookies. She **baked** them for me.

(27)と(27')は意味が異なるが、(28)と(28')は同じ意味である。すなわち、(28)の過去完了形は過去形に換えられるが、(27)の過去完了形は換えられない。両者の違いのポイントは、過去形に換えた文(27')・(28')が、語られた順に出来事を並べるといふ過去形の本来の読み方で読んだとき、どのような意味になるかである。(27')は、fly→open(「鳥が入ってきたので窓を全部開けた」)という意味になるが、(28')は、eat→bake(「食べ終えたクッキーを彼女が焼いてくれた」)というあり得ない意味になってしまう。このようにあり得ない(あるいは、ありそうにない)意味を生む過去形だけが、過去完了形の代用になり得る。

課題10 (冠詞に関する問題)

(29)は「the+(初出)名詞の複数形」の例である。このtheの意味を説明しなさい。他の作品からもこれと同じ意味のtheを見つけなさい。」

(29) a. All **the** shutters **were** closed. (Spring: 6)

b. He had pulled all **the** covers **over** his head. (Spring: 7)

c. He got into the bed and pulled **the** covers **over** his head again.

(Spring: 10)

このtheは全体集合を表すtheである。allがなくても全体を表せる。

- (30) a. He rolled and rolled and rolled until **the** wheels fell off.

(*The Journey*: 43)

- b. “I have lost one of **the** buttons on my jacket.”

(*A Lost Button*: 29)

- c. **The** leaves had fallen off **the** trees.

(*The Surprise*: 42)

課題11 (冠詞に関する問題)

「(31a)はいわゆる無冠詞の例である。(31b)との意味の違いを説明しなさい。また本文から他の無冠詞のbedの例を見つけなさい。さらに、(32b)が悪い理由を考えなさい。」

- (31) a. Frog pushed Toad out of bed.

(*Spring*: 7)

- b. Frog pushed Toad out of the bed.

- (32) a. He pushed him out of the house.

(*Spring*: 7)

- b. *He pushed him out of house.

the bedが物理的物体を表すのに対して、無冠詞のbedは睡眠状態を表す。(31a)で、Toadはpushされたときwas in bedの状態にあり、(31b)ではwas in the bedの状態にあった。was in bedは寝ていたという意味である(ゆえに(33a)はおかしい)。was in the bedはベッドの中にいたことを述べているだけで、寝ていたか起きていたかは不明である。(31a)と(31b)の違いは、前者のみがToadが寝ていたことを明確に述べているということである。(34a)はこれから寝る、(35a)は寝るかどうかはわからない。(34b)は寝ていた、(35b)は寝ていたかどうかはわからない。

- (33) a. *The pillow was in bed.

- b. The pillow was in the bed.

- (34) a. I am going back to bed.

(*Spring*: 9)

- b. Toad was lying in bed.

(*Spring*: 6)

- (35) a. I am going back to the bed.

b. Toad was lying in the bed.

(32b)が悪いのは、houseにはbedと違って特定の機能がなく、「睡眠」のような意味を持たないためだと思われる。例えばschoolには「授業」という特定の機能があり、go to school「授業受けに学校に通う」という表現が作れる(この表現の主語は学生であり、教師は主語にはならない)⁷⁾。

4. 現在完了

A Lost Button

Toad and Frog went for a long walk. They walked across a large meadow. They walked in the woods. They walked along the river. At last they went back home to Toad's house. "Oh, drat," said Toad. "Not only do my feet hurt, but I have lost one of the buttons on my jacket." "Don't worry," said Frog. "We will go back to all the places where we walked. We will soon find your button." They walked back to the large meadow. They began to look for the button in the tall grass. "Here is your button!" cried Frog. "That is not my button," said Toad. "That button is black. My button was white." Toad put the black button in his pocket. A sparrow flew down. "Excuse me," said the sparrow. "Did you lose a button? I found one." "That is not my button," said Toad. "That button has two holes. My button had four holes." Toad put the button with two holes in his pocket. They went back to the woods and looked on the dark paths. "Here is your button," said Frog. "That is not my button," cried Toad. "That button is small. My button was big." Toad put the small button in his pocket. A raccoon came out from behind a tree. "I heard that you were looking for a button," he said. "Here is one that I just found." "That is not my button!" wailed Toad. "That button is square. My button was round." Toad put the square button in his pocket. Frog and Toad went back to the river. They looked for the button in the mud. "Here is your button," said Frog. "That is not

my button!” shouted Toad. “That button is thin. My button was thick.” Toad put the thin button in his pocket. He was very angry. He jumped up and down and screamed, “The whole world is covered with buttons, and not one of them is mine!” Toad ran home and slammed the door. There, on the floor, he saw his white, four-holed, big, round, thick button. “Oh,” said Toad. “It was here all the time. What a lot of trouble I have made for Frog.” Toad took all of the buttons out of his pocket. He took his sewing box down from the shelf. Toad sewed the buttons all over his jacket. The next day Toad gave his jacket to Frog. Frog thought that it was beautiful. He put it on and jumped for joy. None of the buttons fell off. Toad had sewed them on very well.

課題12

(36)・(37)はともに lose という動詞を使っているが、(36)ではそれを現在完了形で、(37)では過去形で用いている。本文中で、(36)と(37)を(36')と(37')にそれぞれ言い換えることができるだろうか？ネイティブ・スピーカーに質問して調査しなさい。

(36) “I have lost one of the buttons on my jacket.” (A Lost Button: 29)

(37) “Did you lose a button? I found one.” (A Lost Button: 32)

(36') “I lost one of the buttons on my jacket.”

(37') “Have you lost a button? I found one.”

本稿のインフォーマント調査によると、(36)と(37)を(36')と(37')にそれぞれ換えても意味は変わらない(少なくともストーリーを変えるような違いは生じない)。

課題13

現在完了には、継続、完了、経験という用法があるとされる。継続では、since~, for~を、完了では、just、already、yetを、経験では、ever、never、before、~timesをしばしば伴う。継続、完了、経験の用法について、過去形、

あるいは、現在形が代用できるかネイティブ・スピーカーに質問して調査しなさい。

(38)・(39)は継続の例である。本稿の調査によると、継続では必ず現在完了形を用いなければならない。(38')・(39')で示すように、過去形(および現在形)を用いることはできない。

(38) “How long **have I been** asleep?” (Spring: 10)

(38') *“(How long **am/was** I asleep?”

(39) “You **have been** asleep since November.” (Spring: 11)

(39') *“(You **are/were** asleep since November.”

(40)-(47)は完了の例である((44)・(45)も完了の用法とみなしたい)。just、already、疑問文のyetを含む文については、過去形による代用が可能である。しかし、否定文のyetを含む文については、(47')で示すように、動詞によって違いがある。何らかの意味的理由があるのだろう。

(40) “Here is one that I've just **found**.”

(40') “Here is one that I just **found**.” (A Lost Button: 34)

(41) “I've just **seen** something awful!”

(41') “I just **saw** something awful!” (Ice Cream: 36)

(42) I've just **eaten** lunch.

(42') I just **ate** lunch.

(43) I've already **eaten** lunch.

(43') I already **ate** lunch.

(44) “I **have lost** one of the buttons on my jacket.” (A Lost Button: 29)

(44') “I **lost** one of the buttons on my jacket.”

(45) “What a lot of trouble I **have made** for Frog.” (A Lost Button: 37)

(45') “What a lot of trouble I **made** for Frog.”

- (46) a. Have you eaten lunch yet?
b. Have you ordered yet?
c. Has Bill arrived yet?
d. Have you seen the movie yet?
e. Have you learned to drive yet?
- (46') a. Did you eat lunch yet?
b. Did you order yet?
c. Did Bill arrive yet?
d. Did you see the movie yet?
e. Did you learn to drive yet?
- (47) a. I haven't eaten lunch yet.
b. I haven't ordered yet.
c. Bill hasn't arrived yet.
d. I haven't seen the movie yet.
e. I haven't learned to drive yet.
- (47') a. I didn't eat lunch yet.
b. I didn't order yet.
c. *Bill didn't arrive yet.
d. ??I didn't see the movie yet.
e. *I didn't learn to drive yet.

(48) は経験の例である。(48) は(48') に言い換えが可能である。

- (48) a. I have been to NYC three times.
b. I have never been to NYC.
c. Have you ever been to NYC?
- (48') a. I went to NYC three times.
b. I never went to NYC.
c. Did you ever go to NYC?

5. おわりに

本稿では、冠詞、過去完了、現在完了をトピックとして、アクティブ・ラーニング型英文法の具体的な授業案を提示した。最後にアクティブ・ラーニング型英文法の達成目標を記しておきたい。

- (49) 生の英語から英語の基本を発掘できる——自らの観察と分析で得た知識は実際の英語の運用と直結し使える文法になる。
- (50) 英語について自身で調べる手段を持つ——インフォーマント、コーパス、辞書を自在に活用できる。
- (51) 学校を卒業した後も自身の英語を自身の力で改善・発展させていける方法を確立する。

注

*本稿の執筆にあたり、Charles Laurier氏、Michael Smith氏にインフォーマントとしてご協力頂いた。記して感謝の意を表する。両氏の献身的な協力がなければ本稿は完成しなかった。

1) 中央教育審議会の用語集 (2012) による「アクティブ・ラーニング」の定義は次の通り：

「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。」

2) ネイティブの回答と辞典の記述が一致しないことがしばしばある。ネイティブ間で意見が対立することも珍しくない。同じネイティブが一晩で意見を翻してしまうことさえある。これらの事態をどう受け止めるかは、学習者自身が決めることである。正解はない。

3) 「the+ 初出名詞」の全てが“one and only”を表すわけではない。例えば(i)も「the+ 初出名詞」の例であるが、これは、「その場の状況からどれを指しているかがわかる

場合」に用いるものである。(ia)では、the hill=this hillとしか取れないだろう。(ib)において、Birdがthe hill=this hillを察するのは容易であろう。(ic)は、聞き手のすぐ近くにストーブがあるという場面である。

(i) a. “This side of **the** hill is nice.” (Two Large Stones: 22)

b. “Bird, can you tell us what is on the other side of **the** hill?”

(Two Large Stones: 24)

c. “If you stand near **the** stove, your clothes will soon be dry.”

(The Corner: 18)

4) 関係節の修飾を受ける名詞に付く冠詞についても同じことが言える。(ia)では、知っているカタツムリは他にはいないということになり、(ib)では、他にもいるかもしれない。

(i) a. He saw **the** snail that he knew.

b. He saw **a** snail that he knew.

(The Letter: 57)

人はしばしば会話をするとき不要な情報は省いて行おうとする。例えば、他にはいないことが事実であっても、それが不要な情報なら省こうとする。すなわち、(ia)が事実であっても(ib)が好まれる場合もある。(ib)を用いても決してうそをついたことにはならない。

(ii) でも同様に、(iia)では愛する人は他にはいないが、(iib)では他にもいるかもしれない。(iia)が事実のとき(iib)を言ってもうそにはならないが、愛する人に対して、他にはいないという情報を省くのは賢明ではないだろう。

(ii) a. You are **the** girl I love.

b. You are **a** girl I love.

(ia)・(iia)が事実のとき(ib)・(iib)を言ってもうそにはならないと述べたが、(iiib)は言わない。

(iii) a. I like **the** long tail that my cat has.

b. *I like **a** long tail that my cat has.

ネコについているしっぽは一本だということは普遍の事実なので、この情報を無理に省こうとするとおかしくなるのかもしれない。*the/*a ceiling* (of the room) で必ず *the* を用いるのと同じことだと思われる。

5) *the black floor* (of the room) のような「*the*+形容詞+初出名詞」も可能である。

6) 「疲れて眠ってしまいました」のような意味は過去完了にはない。(ib)は、*feel*←*fall* という不可解な意味になるだけである。

(i) a. Then Toad felt tired, and he **fell** asleep.

(The Garden: 27)

b. *Then Toad felt tired, and he **had fallen** asleep.

7) (ia) は *the* の省略であり、無冠詞の例ではない。この場合、*the* の有無は意味を変

えない。

(i) a. “Perhaps if I run very very fast, I can be in both places at once.”

(*Upstairs and Downstairs*: 43)

b. “Perhaps if I run very very fast, I can be in both the places at once.”

引用文献

Lobel, Arnold (1970) *Frog and Toad Are Friends*. HarperCollins.

—— (1971, 1972) *Frog and Toad Together*. HarperCollins.

—— (1972) *Mouse Tales*. HarperCollins.

—— (1975) *Owl at Home*. HarperCollins.

—— (1976) *Frog and Toad All Year*. HarperCollins.

—— (1977) *Mouse Soup*. HarperCollins.

—— (1979) *Days with Frog and Toad*. HarperCollins.

中央教育審議会 (2012) 用語集(PDF) (『新たな未来を築くための大学教育の質的転換
に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～ (答申)』) 文部
科学省